

(案の2)

第5回キャンパスおだわら運営委員会 会議記録

日 時	平成26年2月6日(木)午後1時30分から2時まで		
場 所	小田原市役所 議会全員協議会室		
委員長	三輪 建二	欠席	学識経験者
副委員長	瀬戸 充	出席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
委員	金澤 久美子	出席	学識経験者
	齊藤 ゆか	出席	
	左京 泰明	出席	
	有賀 かおる	出席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
	安藤 恵	出席	
	岩屋 泰彦	出席	
	与那嶺 信重	出席	
	石井 悦子	出席	公募市民
	永田 圭志	出席	
	宮地 妃佐子	欠席	教育委員会が必要と認める者
文化部	諸星部長、原田副部長		
事務局(生涯学習課)	古矢課長、大木担当副課長、村田係長、茂木主任、榎本		
キャンパスおだわら事務局	奥村理事長		
キャンパスおだわら人材バンク実行委員会	早野委員長、太田副委員長		
傍聴者	2人		

※委員は区分別五十音順(委員長・副委員長除く)

1. 開会

- ・三輪委員長欠席のため瀬戸副委員長が議長を務めた。
- ・卓上の資料について、資料6と記載されたものが2種類あるが、1部は運営委員会資料の差し替え、もう1部は同日午前中に開催された社会教育委員会議の資料(答申案)で、この会議では特に使用しないが、参考に配布したことを説明。

2. 議題

(1)開設講座について

キャンパスおだわら事務局(以下C事務局) 資料1に基づいて説明させていただく。こちらは前回の第4回運営委員会以降に申請された講座である。101講座開設予定である。細かい説明は省くが、今回は3月1、2日開催のキャンパスおだわら人材バンクフェスティバル『子どもと大人の学びフェスタ』で行う講座が約60講座開設されている。資料について、右の端にジャンル別に分類している。音楽・演劇については11講座10%、文学・歴史については12講座11%、美術・手工芸については16講座15%、スポーツ・アウトドアについては25%、趣味・実用・娯楽・ゲームなどはその他の区分になっているがこちらは30講座30%となっている。こういった大きな分類の傾向が見られる。資料の中で印をつけているが、講座の名称の先頭の【お】は小田原ならではの講座や行事、また【子】は子どもが参加できる行事を表示している。内容についてはご確認いただければと思う。説明は以上である。キャンパスおだわら事務局で仮認定した講座だが、この内容についても一度委員の皆様にご確認いただきたい。

また、講座No.24とNo.37だが、講座の名称が「日本の美しい文学に親しもう！西湘書道教室」となっているが、「日本の美しい文字に親しもう！西湘書道教室」と訂正させていただきたい。

副委員長 No.24とNo.37の「文学」を「文字」に訂正するということでよろしいか。少し教えていただきたいが、No.19の俳句の会の参加費3,000円だが、俳句というのはこれほどかかるものなのか。

C事務局 内容については、座学で勉強するだけではなく、この中には飲み物代なども含まれている。

副委員長 他には特にないか。事務局にお願いだが、今ここで目を通してなかなか難しいので、これはもう少し前にいただけないのか。

C事務局 提出が遅くなり申し訳ない。早い時期に提出するようにする。

副委員長 以上について認定してもよろしいか。今日お配りした講座について、文字の

訂正のみで認定ということによろしいか。

(異議なし)

(2) キャンパスおだわらのあり方について

副委員長 次に、議題「(2) キャンパスおだわらのあり方について」を議題とする。開催通知でもご案内したように、議論をさらに活性化し、今後の議論の方向性を整理するために、委員以外のメンバーを交えた意見交換会を、この会議の後で行うことにした。

本日の運営委員会では、意見交換会に臨むに当たって、これまでの議論を振り返り、そこから見えてきた課題を共有してまいりたいと考えている。また、あわせて意見交換会の実施方法についてもご案内させていただく。

それでは、資料2から6について事務局から説明をお願いする。

古矢課長 それでは、議題の「(2) キャンパスおだわらのあり方について」説明する。資料の説明に入る前に、今後の議論の進め方について、ご説明させていただく。前々回の運営委員会から、「目指す姿」を中心に議論を重ねてきているが、前回ではさらに議論を深めていただくために、「目指す姿」を計るための明確な指針として、関係する各事業の「指標」及び「目標値」を案として提示させていただき、さまざまなご意見をいただいた。

今後の運営委員会では、「指標」及び「目標値」を定める議論を進めていただきたいと考えているが、その進め方に当たって前回の運営委員会終了後に、齊藤委員及び左京委員から、さらに活発な議論をしていただくために、通常の会議では委員の皆様とキャンパスおだわらの運営を担っていただいている市民団体の皆様キャンパスおだわらの運営を担っていただいている市民団体の皆様と一緒に議論することはないのだが、ご出席いただいているこちらの市民団体の皆様なども交えた意見交換会を開催したらどうかというご提案をいただいた。正副委員長とご相談した結果、よろしいのではないかとということで、本日、意見交換会という形で開催するに至ったものである。

意見交換会の進行等詳細については、後ほどご説明させていただくが、この意見交換会を通して具体的な目標を設定してまいりたいと考えている。よくPLAN-DO-CHECK というような言い方をするが、目標を立てて、それに沿って評価をして、チェックをして、そういった流れでいきたいと思う。

それでは資料の説明に入るので、資料2をご覧ください。

資料2は、今年度これまで4回にわたって運営委員会でご議論いただいたが、その「キャンパスおだわらのあり方」に関する会議の概要を、皆様からいただいたご意見を中心にまとめたものである。これは参考としてご覧い

ただきたい。

次に、資料3であるが、こちらは、本日の意見交換会での検討内容を整理するために作成した資料で、前4回の運営委員会でのご意見を集約するとともに、第2回運営委員会で行政によるキャンパスおだわらの評価としてご提示した、今後改善すべき点も考慮し、一番右の「今後の議論の方向性」という欄に、本日の意見交換会で検討していただきたい内容を整理したものである。この整理に当たっては、今回の意見交換会の実施に当たってご指導をいただいている、齊藤委員のご協力のもと取りまとめたものである。

次に、意見交換会について説明するので、資料4をご覧ください。

ただいま申し上げたように、今回の意見交換会の実施に当たっては、齊藤委員にご指導いただき、この資料4も齊藤委員のご協力のもと作成したものである。

まず、「1. 目的」であるが、今後のキャンパスおだわらの方向性を見出し、具体的な事業展開と評価方法を確立していくこと、とした。

次に、「2. 実施方法」だが、クドバス手法を用いたワークショップ形式で実施するものである。

クドバス手法については、後ほど齊藤委員からご説明をいただく予定だが、ローマ数字でIからIVまでの段階を示しているのは、先ほど今後の議論の進め方についてご説明した通りの内容で、第I段階は本日の運営委員会で、第II段階はこれから行う意見交換会で、そして第III、第IV段階は次回以降の運営委員会で、それぞれ検討していただく内容である。

次に、「3. ワークショップ」であるが、本日この後で開催する意見交換会の内容になっている。

日時、場所については、この運営委員会終了後に、この会議室で開催する。

「3. (3)参加者」であるが、運営委員会委員のほか、市民団体の代表、それから行政職員、部長、副部長、私も参加し、また若手の職員2名も本日参加させていただく。市民団体代表は、キャンパスおだわらの運営を担っていただいているNPO法人小田原市生涯学習推進員の会と、きらめき☆おだわら塾を運営する会から2名ずつ参加いただけるようお願いした。

「3. (4)ファシリテーター」であるが、今回ご指導をいただいている齊藤委員をお願いした。

「3. (5)検討内容」であるが併せて、資料3をご覧ください。この資料3でお示しした「小田原の地域資源を生かしたキャンパスおだわらのあり方と方向性(ビジョンの検討:誰のために、何をすべきか、期待される成果を具体的に示す)」、「キャンパスおだわらの企画・実施運営に求められる人材とは(キャンパスおだわらの運営者の仕事分析)」、「『学んだことを地域に生かす』主体的な市民(個人・組織)を育成していくために(『潜在的ボランティア希望者』を活動に導く人材育成戦略)」の3つをテーマにワークショップを進めてまい

りたいと考えている。

「3. (6)進行方法」、「3. (7)事後作業」、並びに資料5のクドバス手法のマニュアルについては、意見交換会の冒頭に齊藤委員からご説明いただきたいと思う。

次に、資料6だが、先ほど卓上にお配りした方をご覧いただきたい。こちらは、意見交換会の出席者名簿で、3つのテーマごとに班分けしたものである。こちらについては、恐れ入るが、運営委員会での委員の皆様の発言等を参考に、事務局の判断で班分けをさせていただいた。私からの説明は以上である。

副委員長 説明は以上だが、齊藤委員の方で何かあるか。

齊藤委員 後半部分の2時間半を使って、クドバスという方法でワークショップをさせていただく。皆様それぞれ発言の場が少なかったと思うが、思いきり話をさせていただければと思う。

副委員長 左京委員、何かあるか。

左京委員 特にない。

副委員長 それでは、説明、内容についてご質問はあるか。

左京委員 ワークショップの内容というわけではないが、念のために伺っておきたい。社会教育委員会議の答申だが、先ほど細かい部分では使わないので今後の参考程度にとおっしゃっていたと思うが、これはかなり大事な答申なのではないかと認識している。これまでのキャンパスおだわらの運営に関して議論してきたことと重なったり影響を及ぼすものであったり、あるいはこの後半のワークショップを行うにあたって、加味した方が良い部分などは、この答申の中にはないのか。

古矢課長 おっしゃる通りで、本当だったら先に早い段階でこういう指針というものができて、小田原市がこういう指針でやっていくので、それがキャンパスおだわらにどのように反映されていくというような順番だが、今回たまたま同時に並行して言葉としてまとめてきた経緯がある。今までの総合計画もそうだが、本来であればそういう順番を追って出てくるのだが、かなり同じことを確認しながら議論をしてきていただいたというところもある。今日先ほど最終の案が、これから若干の修正もあるがまとまったところで、それを教育委員会に提出して、諮問に対する答申ということになるが、今日せっかく皆様おいでであるし、実際にこの内容に関わることをやっただいていてということで、いち早くお配りさせていただいた。今回、あまりそれを会議の中で仔細に検討していただくということにはできないので、参考までにという

ことである。あまり大きくこれまで皆様に議論していただいたところから内容がずれているというところではないのだが、皆様にこれを読みこなしていただく時間をとることもできないため、改めて次回以降の会議にこれを読んでいただいた上でさらにとという点があったら、反映させていただきたいと思う。

諸星部長 補足させていただく。若干午前中の会議の中で修正もあったが、基本的なところは変わっていない。考え方としては課長が説明した通りだが、本日、これからのワークショップの中で3班に分かれ、それぞれのテーマでワークしていただく上では、あり方と方向性や、求められる人材、学んだことを地域に生かすということについては、特にこの答申の中では、3頁から5頁の中にある、「3. 社会教育・生涯学習振興のための視点」というところに5つの視点がある。それから「4. これからの小田原市の社会教育・生涯学習のあり方」という、ここが答申の中心になるところだが、こちらも(1)から(6)まである。こういったところを踏まえながらご議論いただけるとありがたい。これまで説明の中で総合計画や小田原市の現状と課題などを説明してきたことを踏まえて、これからの社会教育・生涯学習のあり方について、少し包括的に議論をしていただいて、答申としてまとめていただいたものなので、入り口の間口の広い、少し広めの文章になっている。キャンパスおだわらはそれを具体的なものにしていくという場面だと思う。こういった方向性を踏まえていただきながらこれからのワークショップの中でご意見をいただく時に使っていただければということになる。そういう意味では、左京委員にご指摘いただいたように大変重要なところである。それほど長文ではないのでご覧になりながら、これまで事務局が言ってきたことがある程度こういう形で少し整った形になってきたというようにお考えいただいて、それぞれのテーマごとの中で、方針の中でこれを具体化していく、キャンパスおだわらの具体的な展開の中ではどうしていったら良いかというところで参考にしていただければと思う。

副委員長 ほかにないか。それではこれまでの議論の総括ということで課題の共有、この議論の方向性、先ほどの説明の通りで進めさせていただいてよろしいか。
(異議なし)

3. その他

- ・ 次回の運営委員会は平成26年4月22日(火)午後2時から開催。後日案内を発送。

以上